

眞崎 勝久 先生

渡邊 充 先生

篠田 紘司 先生

中村 優理 先生

岡田 和将 先生

(順不同)



## 【お薬の質問① 薬の価格について】

Q 「生物学的製剤の薬価が高すぎて、医療制度が成り立たなくなるのではないかと心配です。」

A 「薬価が高いことは事実ですが、患者さんのQOL向上や、就労が可能になることによるメリットが大きいです。」

- 確かに生物学的製剤は高くて年間数千万円単位で薬価がかかります。しかしこの治療で再発が減り、入院の負担や後遺症が抑えられるようになっています。(眞崎先生)
- 病院によって使用できる薬が限られていることもありますが、必要な患者さんには使用したほうがいいという考えです。(中村先生)
- 病気により就労が立ち行かないことによる社会的損失は大きいです。生物学的製剤を使うことで働くことができるようになり、社会貢献が可能となることが多いです。また、ステロイドを減らすことができれば、副作用や合併症に対する負担も軽減できます。単独では薬価が高くなても多くの方が使用している薬もあります。このように、全体のコストでみれば生物学的製剤の薬価は高くないと考えます。(岡田先生)

## 【お薬の質問② 後遺症に対する薬について】

Q 「視神経脊髄炎の後遺症に効く薬が発売される予定はありますか？」

A 「後遺症をターゲットにした新薬は今のところありませんが、対症療法の新薬は開発されています。」

- 残念ながら今のところ後遺症をターゲットにした新しい薬はありません。ただ、脊髄炎による痛みしびれや排尿障害、排便障害に関しては、対症療法ではありますが新しい薬が出てきています。主治医と相談しながら、適宜薬を調節することが勧められます。また排尿障害に対しては、泌尿器科など他の診療科との連携も可能です。(渡邊先生)
- 年々薬の選択肢が増えているので、主治医の先生とよく話し合って選択していくことが重要です。後遺症の治療には再生医療が期待されますが、まだ保険収載には時間がかかる印象です。ただ、将来的には目が見えない人が見えるようになったり、車椅子の人が歩けるようになったりすることを目指して研究が進められているのは事実です。(篠田先生) そのような時代が来るまで、これ以上再発させないように、今できることをやることが重要です。将来はそんなに暗くない、今ある障害も治せる時代が来るかもしれません。(中島先生)

## 【お悩み① リハビリとの向き合い方について】

Q 「運動やリハビリテーション(リハビリ)を勧められますが、しびれと痛みなどでできません。足の筋肉が衰え、ステロイドの副作用でムーンフェイスと体重増加が気になります。」

A 「リハビリはつらいものではなく楽しむことが重要です。専門家の意見も聞きながら、楽しんでできることを探してみてはいかがでしょうか。」

- 患者さんごとに症状が異なりますが、リハビリを開始するにあたっては、できるだけ痛みをコントロールすることが大切です。完全に痛みをとるのは難しくても、リハビリをすることで少しほぐれたり、気持ちが前向きになったりすることもあります。自己流ではなくリハビリの先生に間に入ってもらい、その人に合ったリハビリやストレッチを学ぶことが勧められます。(中村先生)